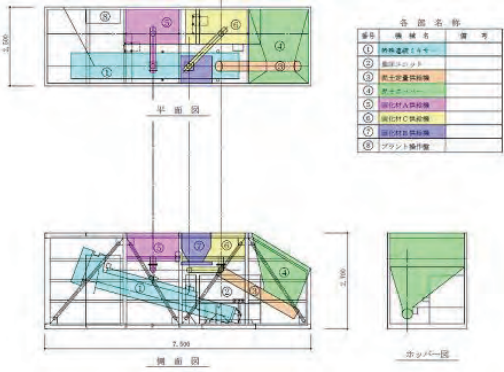
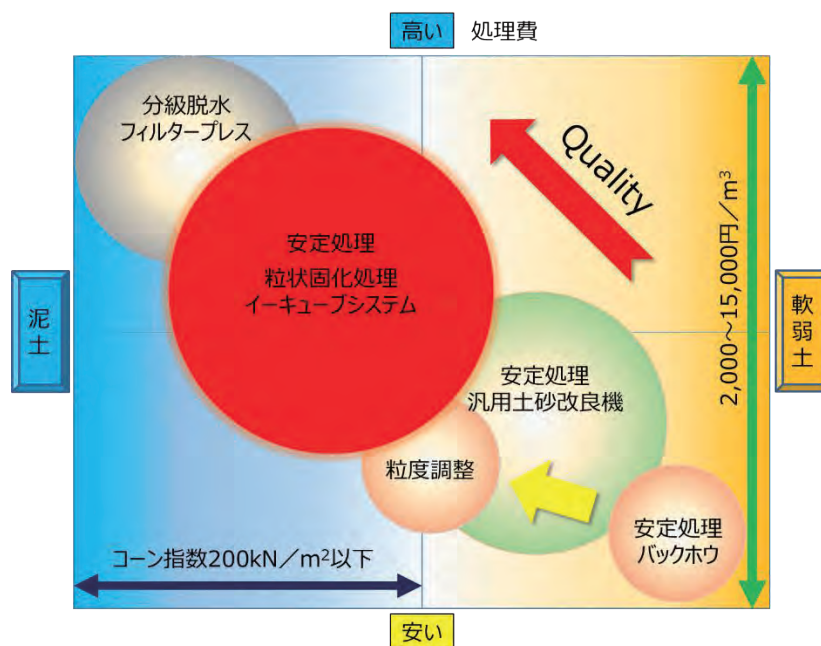


整理 No.	07	分類	フライアッシュ、高炉スラグ、PS 灰、災害廃棄物		
会社名	一般社団法人泥土リサイクル協会				
担当者	野口真一				
連絡先	TEL	0587-23-2713	FAX	0587-23-2734	
	E-mail	deido@deido-recycling.jp			
技術の名称	泥土の再資源化技術 イーキューブシステム®(粒状固化工法)				
概要 (150字程度)	安定処理技術に位置付けられるイーキューブシステム®は、高分子凝集剤と固化材を泥土の流動程度に応じて添加し、約 30 秒程度の攪拌・混合を連続的に処理することにより、粒状の地盤材料を生成するものであり、泥土を要求品質に応じた地盤材料に改良して路体・路床材、埋戻し材や堤体材料等として再利用することができる技術である。				
技術登録等	特許第 3725120 号、建設技術審査証明第 0702 号、旧 NETIS CB-030057-V				
技術の概要	<p>● 粒状固化処理装置</p> <p>①特殊連続ミキサー(攪拌・混合装置)、③泥土定量供給機、⑤⑥⑦固化材定量供給機等の主要装置から構成されています。</p>  <p style="text-align: center;">粒状固化処理装置</p>				
次頁あり	<p>● 粒状固化の施工手順</p> <p>泥土は、バックホウにより粒状固化処理装置本体の泥土ホッパーへ投入されます。固化材等を添加し、攪拌・混合した後、連続的に処理土として排出されます。</p> <p>工法の特徴</p> <p>1. 特殊連続ミキサーによる連続処理 (25m³/h、40m³/h、100m³/h) により、従来工法に比べ生産処理効率が高く、泥土を産業廃棄物とし処理するよりも経済的である。</p>				

2. 改良目的に応じた多種多様な固化材（中性および弱アルカリタイプ、有機質対応タイプ）を準備しており、要求品質に対して柔軟な対応が可能である。
3. 性状の異なる多種多様な泥土に対しても、利活用の目的に応じた品質の処理土（第 2～4 種処理土相当）の生成が可能であり、処理土の用途範囲が広く限定されない。
4. 高含水の泥土（例えば、自硬性汚泥：含水比で 120%以上）においては、貯泥・調泥により固液分離を図り含水比をコントロールすることにより、固化材の添加量低減（コスト縮減）が図れる。また、処理装置はコンパクトで可搬式のため、現場環境の制約が少ない。
5. 処理土は粒状を呈し、ハンドリングに優れており、かつ再泥化しない。
6. 協会の推奨技術のひとつであり、どの企業でも施工できる。

イーキューブシステムは、高含水泥土処理土の品質を安定的かつ継続的に満足するために必要な処理技術ならびに処理工程の管理が確立された工法です。また、処理コストも産業廃棄物として処理するよりも安価となり、工事費が低減できます。

技術の概要
(つづき)



環境負荷低減においても、高含水泥土処理に使用される固化材は、石炭灰や製紙焼却灰の他、近年問題となっている廃石膏ボード等の産業廃棄物を有効利用したものを積極的に使用しており、他産業の環境負荷低減を図るとともに、原位置で高含水泥土を処理ことで CO₂ 削減や環境破壊の抑止を図っています。

<p>技術の概要 (つづき)</p>	
------------------------	--